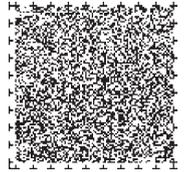


熊本地震への対応



発達障害情報・支援センター長 深津 玲子

震度7の前震があった翌日の4月15日、熊本市発達障害者支援センター「みなわ」が当センターウェブサイトからリーフレット（東日本大震災対応版）をダウンロード印刷し、避難所（200箇所）を巡回する保健師に配布して活用を依頼されました。

本震の翌日（4月17日）からは当センターへマスコミ各社からの問い合わせが相次ぎました。主にウェブサイトからの引用に関する問い合わせだったため、直接センターで対応しましたが、一部取材依頼もありましたので、そちらは正式に企画課を通して対応させていただきました。

4月19日には熊本県版、熊本市版、広域版のリーフレットを作成し、直接メール添付にて現地関係者へ送付してご活用いただきました。また、熊本県北部発達障害者支援センター「わっふる」宛てに「災害時の発達障害児・者支援エッセンス」の冊子を100部発送し、後日、熊本県南部発達障害者支援センター「わるつ」と熊本

市発達障害者支援センター「みなわ」にもそれぞれ50部ずつお送りしました。

震災対応が長期化する中、5月2日にはウェブサイト「平成28年熊本地震に関する情報」欄を設置して、観光庁による宿泊施設提供の情報など最新情報の掲載を図り、トップページの新着情報欄からワンクリックでアクセスできるよう配慮しました。

熊本地震では電力の復旧が早急に行われたため、ネットワークを活用したタイムリーな間接支援が可能でした。震災直後に構築された熊本県内の発達障害者支援センターをはじめとする各機関や日本発達障害ネットワーク等の発達障害関係団体、文部科学省特別支援教育課、厚生労働省障害福祉課及び発達障害情報・支援センター等のメーリングリストによって情報共有・情報提供、その他様々な間接的対応がスムーズに運びました。

家族の状態を確認しましょう

家族へのサポート

- ★ 災害の影響で子どもと家族が離れられなくなる場合や、避難所の中で理解者が得られない場合などに、家族のストレスは高まります。本人の支援を一番長い時間担当する、家族のサポートを迅速に行うことは効果的といえます。

■ 配給や買い物、役所や銀行などの手続きに行けずに困っている場合
■ 水や食料、毛布などの配給時に、ずっと待たせられていないで騒いでしまう子どもがいた場合

家族の代わりに子どもの相手をしたり、発達障害の特性を家族の了解のもとで周囲の人たちに説明していただく、家族はたいへん助かります。

対応に協力してくれる人が周囲にいますか確認しましょう

協力者の確認

- ★ 発達障害のある人は、ひとりひとりの健康状態や、ストレスの蓄積につながる状況などがさまざまで、対応方法が見つけにくいことがあります。個別的な配慮が必要になる場合は、周囲に本人をよく知っている人がいるか、その人は対応に協力してもらえそうかを確認しておく必要があります。

ご家族のかたへ

- ★ 子どもは、他人に起こったことでも自分のことのように感じる場合があります。さらに発達障害がある場合には、想定以上の恐怖体験になってしまうこともあります。子どもには災害のテレビ映像などを見せず、別のことで時間を過ごせるような工夫をすることが必要です。
- ★ 災害を経験した子どもは、災害前には自分ひとりできていたこともしなくなったり、興奮しすぎてしまうことがあります。発達障害がある場合でも、基本的には子どもの甘えを受け入れてあげるのがよいでしょう。叱ったりせず、おだやかな言葉かけをしながら、少しずつ子どもが安心できるようにすることが大切です。

相談窓口

発達障害者支援センター

熊本県北部発達障害者支援センター
わっふる TEL 096-293-8189
FAX 096-293-8239

熊本県南部発達障害者支援センター
わるつ TEL 0965-62-8839
FAX 0965-32-8951

熊本市発達障害者支援センター
みなわ TEL 096-366-1919
FAX 096-366-1900

大分県発達障害者支援センター
ECOAL TEL 097-513-1880
(イコール) FAX 097-513-1890

災害時の発達障害児・者支援について

被災地における、発達障害のある人やご家族の生活には、発達障害を知らない人には理解しにくいさまざまな困難があります。

そんなとき、発達障害児・者への対応について少しでも理解して対応できると、本人も周囲のみんなも助かります。

発達障害情報・支援センター
http://www.rehab.go.jp/ddis/

2016.4.19

↑（4/19に作成した広域版リーフレットの表）

